

# 検査情報月報



2013  
5月

横浜市衛生研究所

# 平成25年5月号 目次

## 【トピックス】

平成24年度 医動物・食品中異物検査のまとめ .....	1
A群溶血性レンサ球菌のT型別について(病原体サーベイランスのまとめ) .....	4
食品中の放射性物質検査結果 .....	5

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成25年4月 .....	7
------------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成25年4月分) .....	11
-------------------------------	----

## 平成24年度 医動物・食品中異物検査のまとめ

医動物担当では、人の健康を害したり、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者等の依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。平成24年度の食品中異物検査実績は、13件でした。

依頼された13件のうち、昆虫類は12件(チョウ目5件、ハエ目3件、コウチュウ目2件、ゴキブリ目1件、シラミ目1件)で、その他の節足動物(等脚目)1件でした。今回は、同定結果の詳細を報告します。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
ドライフルーツに幼虫が混入		ノシメマダラメイガの幼虫 (チョウ目)	体色は黄白色。幼虫は米などの穀物、ナッツ、チョコレート、香辛料など多くの貯蔵食品、乾燥食品を食害する。世界共通種で、広く日本に分布する。
弁当のごま和えに幼虫が混入		ノシメマダラメイガの幼虫 (チョウ目)	同上
沢煮椀に幼虫が混入していた		ハイマダラノメイガの幼虫 (チョウ目)	頭部は黒色、胴部は黄白色。年3~4回の発生で、幼虫で越冬する。幼虫はアブラナ科の野菜(ダイコン、ハクサイ、キャベツ等)を食害する。日本全土に分布する。 *写真は同定根拠となった頭部の毛の様子
はんぺんに小さな黒い虫が混入		メイガ科の一種 (チョウ目)	本科のものは重要な害虫が多く含まれ、幼虫の食害状態も多様である。葉を巻くもの、茎や根および新梢、枝、幹に入り込むもの、果実やさや、花に食入するもの、穀類や菓子類を食害するものなど種類は非常に多い。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
パックの刺身に幼虫が混入	 幼虫、茶褐色、約2.5mm	チョウ目(ガ類)の若齢幼虫 (チョウ目)	ガ類成虫は一般に夜行性で、灯火に集まる。主に幼虫が食品を加害し、その生活様式は多様で、一般的には植物や乾燥動植物等を食害する。
パックの鳥胸肉にウジ状の虫が多数混入	 幼虫、乳白色、約3mm	ナミクバエの幼虫 (ハエ目)  *写真は同定根拠となった咽頭骨格(種により特徴的)の様子	雌成虫はしばしば家屋内に侵入し、1 齢幼虫を産み落とす。幼虫は便池、塵芥等に多く発生する。日本全土で普通に見られる。
ゆでうどんに小さな黒い虫が混入	 成虫、赤褐色、約1.5mm	コバエ類の一種 (ハエ目)	小型のハエ。食性は広く、幼虫が腐敗した動植物質から発生する種類、動物の排泄物から発生する種類、植物の葉の組織内に穿孔する種類などその数は非常に多い。
まつたけに幼虫が混入	 幼虫、黒褐色、約10mm	キノコバエ科の幼虫 (ハエ目)	本科の幼虫は各種のキノコ類を摂食する。幼虫は主にキノコの子実体を摂食する。
ワカサギに黒い虫が混入	 成虫、茶褐色、約12mm	ヒメヒラタシテムシ (コウチュウ目)	体色は灰色から黒褐色。成虫は4~10月に出現し、腐敗動物質に集まる。 日本全土に分布する。
購入したパンに虫の死骸が混入	 成虫、赤褐色、約3mm	ヒラタコクヌストモドキ (コウチュウ目)	体色は赤褐色。穀粉害虫として最も普遍的な種で、小麦粉などの穀物をはじめ、菓子、パン類、ビスケット、チョコレートなど多くの食品を食害する。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
あぶらかれいのえんがわに黒い虫が混入	 <p data-bbox="437 474 703 510">幼虫、黒褐色、約7mm</p>	チャバネゴキブリの幼虫 (ゴキブリ目)	小型のゴキブリで、体色は赤褐色。飲食店、ビル、事務所などに生息し、気温の低下がない場所では冬季でも活動が見られる。雑食性であらゆる物を食害する。日本全土に分布する。
弁当(ご飯)の中に虫が混入	 <p data-bbox="437 772 703 808">成虫、灰白色、約3mm</p>	ヒトジラミ (シラミ目)	体色は淡い灰白色。世界各地に分布する代表的なヒト寄生性種。成虫、幼虫ともにヒトから吸血する。衣類の縫い目や折れ目(コロモジラミ)、頭髪内(アタマジラミ)に生息する。
キャベツのおひたし(ちりめんじゃこ入り)に異物が混入	 <p data-bbox="437 1070 703 1106">幼体、灰褐色、約13mm</p>	ウオノエ科の幼体 (その他の節足動物、等脚目)	ウオノエ科の多くは海水産。魚類寄生性で、ひれ、口腔、えらに付着する。

【 検査研究課 医動物担当 】

## A群溶血性レンサ球菌のT型別について (病原体サーベイランスのまとめ)

A群溶血性レンサ球菌感染症は、五類感染症(劇症型溶血性レンサ球菌感染症は全数把握疾患、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は小児科定点把握疾患)の対象疾患であり、また病原体サーベイランスの対象となる疾患になっています。これら疾患の起因菌は、*Streptococcus pyogenes* であり、劇症型は手足の筋肉等の軟部組織に壊死性の炎症を伴う重篤な症状を呈します。咽頭炎は主に小児に多く見られ、その他に扁桃炎や猩紅熱、続発症として急性糸球体腎炎、リウマチ熱等を発症することがあります。

当所では、病原体サーベイランス事業として小児科定点から送付された咽頭炎症状患者の咽頭ぬぐい液からA群溶血性レンサ球菌を培養し、分離された株についてその疫学的指標であるT型別\*を行っています。

今回は2012年1月から12月までの1年間に分離されたA群溶血性レンサ球菌のT型別\* 結果を報告します。2012年1月から12月に受付けた82検体から分離された株は計57株で、T12型、T1型、T6型、TB3264型の順で多く見られました。過去3年間の結果と比較するとT6型が多く分離されました(表)。

これらの結果は、衛生微生物協議会溶血レンサ球菌レファレンスセンターに報告しており、全国のデータがまとめられて国立感染症研究所のホームページで報告されます<sup>1)</sup>。

表 病原体サーベイランス検体から分離されたA群溶血性レンサ球菌のT型別結果(2010年～2012年)

菌型	T1	T2	T3	T4	T6	T12	T25	T28	TB3264	型別不能	計
2012年1～12月	11	2		6	11	12	1	4	10		57
2011年1～12月	8		4			7	2	7	19	2	54
2010年1～12月	26			3	1	11	3	15	3	4	67

\* T型別とは、A群溶血性レンサ球菌の菌体表層に存在するT蛋白の血清型別のことで、疫学調査の手段として広く用いられています。

<sup>1)</sup> 国立感染症研究所 第33回衛生微生物技術協議会溶血レンサ球菌レファレンスセンター会議資料  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/33reference.html>

【 検査研究課 細菌担当 】

# 食品中の放射性物質検査結果

平成23年3月に、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、食品中の放射性物質検査が急務となりました。そこで、横浜市衛生研究所においてもガンマ線核種分析装置を導入し、平成23年7月より検査を開始しました。

平成24年4月から平成25年3月までに当所に搬入された食品及び水道水の検査結果は表1、表2のとおりでした。検査の結果、基準値を超えた検体はありませんでした。

表1 検体の種類

検体の種類		説明	検査検体数	Cs検出検体数
農作物	市内産	横浜市内産の農作物	31種44検体	10検体
	市場流通品	中央卸売市場(本場・南部)流通の農作物	30種80検体	5検体
魚介類	市内産	横浜市内漁港水揚げの魚介類	33種78検体	4検体
	市場流通品	中央卸売市場(本場・南部)流通の魚介類	36種69検体	24検体
原乳		横浜市内産の原乳	12検体	-
水道水		横浜市内の水道水及び水源地の水	10検体	-
流通品	インターネット	インターネット上で流通している食品	36検体	8検体
	市内量販店	横浜市内で流通している食品	54検体	2検体
小学校給食	主食・牛乳	主食のパン・米類及び牛乳など乳類	主食218検体 乳類183検体	- -
	冷凍みかん	神奈川県産冷凍みかんの実態調査	86検体	76検体
保育園給食	まるごと累積 線量調査	提供された1人分の給食について 原則1週間分ごとに検査	33検体	17検体
合計			903検体	146検体

表2 検査結果

検体の種類	検査検体名 []内は検体数 検体数1のものは省略	Cs検出検体 []内はCs検出検体 数	測定結果 Cs-134、 Cs-137合計値 (Bq/Kg)
農作物	市内産 ウド、ウメ、カキ、カブ、カリフラワー、キウイ、キャベツ、きゅうり[2]、ごぼう、こまつな、さつまいも、サトイモ、ししとう、じゃがいも、だいこん、たけのこ[7]、たまねぎ、トマト、なし、なす[2]、にんじん[2]、ねぎ、はくさい[2]、ぶどう、ブルーベリー、ブロッコリー[2]、ほうれんそう[3]、みかん、レタス、小麦(原麦)、未成熟いんげん	たけのこ[7]	7.76~38.0
		ブルーベリー[1]	2.24
		みかん[1]	2.74
		レタス[1]	0.528
		市場流通品	いちご、えのき茸、キャベツ[5]、きゅうり[11]、ごぼう、こまつな、さくらんぼ、さつまいも[2]、ししとう、じゃがいも、すいか[7]、タアサイ、だいこん[5]、とうがん、どうもろこし、トマト[5]、なす[3]、にら[4]、にんじん、ねぎ[3]、はくさい、ピーマン、ぶどう[5]、プラム、メロン[8]、もも[2]、りんご[2]、レタス、西洋なし、未成熟いんげん[2]
さつまいも[2]	0.760、7.73		
		にんじん[1]	0.832
		もも[1]	8.47

表2 検査結果(つづき)

検体の種類	検査検体名 □内は検体数 検体数1のものは省略	Cs検出検体 □内はCs検出検体 数	測定結果 Cs-134、 Cs-137合計値 (Bq/Kg)		
市内産	アイナメ、アカカマス[4]、アカシタビラメ、イボダイ、ウマヅラハギ、ウミタナゴ[4]、カサゴ、カワハギ、ギンボ、コウイカ[4]、コショウダイ[2]、コノシロ[3]、ゴマサバ[4]、コンブ、シリヤケイカ[4]、シロギス、シログチ[6]、ジンドウイカ[2]、スズキ[5]、タチウオ、テナガダコ、ナミガイ、ヒラメ、ブリ、ホウボウ、マアナゴ[5]、マコガレイ[7]、マゴチ[3]、マルアジ[4]、ムシガレイ、メイタガレイ[3]、メジナ、ワカメ	スズキ[2]	2.44、15.5		
		マアナゴ[1]	2.19		
		マゴチ[1]	3.06		
魚介類	市場流通品	エゾイソアイナメ[1]	0.816		
		カツオ[1]	0.696		
		キンメダイ[3]	3.28～3.99		
		クロムツ[2]	2.84、3.12		
		ゴマサバ[2]	1.06、1.72		
		スズキ[1]	2.15		
		ネズミザメ[1]	9.33		
		ヒラメ[1]	1.41		
		ブリ[6]	2.12～8.76		
		マアジ[1]	2.96		
		マサバ[1]	3.60		
		マダラ[1]	10.4		
メカジキ[3]	1.05～3.28				
原乳	原乳[12]	—	—		
水道水	水道水[9]、水源地表流水	—	—		
インター ネット	猪肉、果実酒、果汁入り飲料(乳児用食品)[2]、菓子類(乳児用食品)[3]、粉ミルク[5]、たけのこ[5]、ブルーベリージャム、ベビーフード[14]、干しいも、桃ゼリー、ヨーグルト、わらびの水煮	果実酒[1]	4.66		
		たけのこ[4]	9.39～20.3		
		ブルーベリージャム[1]	2.70		
		ベビーフード[1]	3.42		
		干しいも[1]	4.88		
流通品	市内量販店	果実酒[1]	3.13		
		ベビーフード[1]	1.42		
小学校 給食	主食・牛乳 穀類[218]、乳類[183] 米[79]、麦[34]、胚芽米[34]、もち米、パン[70] 牛乳[179]、ブルーン発酵乳[4]	—	—		
		冷凍みかん	冷凍みかん[81]、冷凍みかんの皮[5]	冷凍みかん[72]	3.19～11.2
			冷凍みかんの皮[4]	8.49～18.9	
保育園 給食	まるごと累積 線量調査 提供給食[33]	提供給食[17]	0.0653～0.250		

【 検査研究課 微量汚染物担当 】



# 感染症発生動向調査委員会報告 4月

## 《今月のトピックス》

- 風しんが非常に流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

### 全数把握疾患

4月期に報告された全数把握疾患

パラチフス	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
E型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	1件
急性脳炎	1件	風しん	66件
後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	4件		

#### <パラチフス>

1件の報告がありました。感染経路感染地域等不明です。

#### <E型肝炎>

60歳代の報告が1件ありました。国内での経口感染が推定されていますが、詳細は調査中です。

E型肝炎の報告で国内感染が推定されたのは、市内では本件が初めてです。1999年4月から2008年第26週までのE型肝炎の報告のうち、推定感染地域が国内とされている218例中、111例に生肉や内臓の喫食が関連していたとのことです。肉や内臓については、中心部までよく加熱して食べましょう。E型肝炎となった場合の致死率は、一般の人々では0.5-4.0%ですが、妊婦の場合では17-33%と高く、注意が必要です。

◆E型肝炎とは(国立感染症研究所 H.P.) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/hepatitis/hepatitis-e.html>

◆E型肝炎について(横浜市衛生研究所 H.P.) <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/hev1.html>

#### <アメーバ赤痢>

腸管外アメーバ症(感染経路・感染地域等不明)1件、腸管アメーバ症(日本国内での性的接触による感染が推定)1件の報告がありました。

#### <急性脳炎>

幼児の報告が1件ありました。接触感染が推定され、病原体として便検体からロタウイルス(遺伝子型G1P8)が検出されています。下痢、嘔吐が3日間続いた後、小脳失調や意識障害が出現しました。

#### <後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

AIDSが2件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。全て国内での感染が推定されています。無症状病原体保有者の1件は異性間性的接触、その他の3件は同性間性的接触による感染が推定されています。

#### <侵襲性インフルエンザ菌感染症>

2013年4月1日より届出疾患となりました。70歳代男性1件(ワクチン接種歴無し)の報告がありました。症状は肺炎で、血液よりインフルエンザ菌が検出されています。血清型は型別不能型でした。感染経路は不明です。なお、インフルエンザ菌では、莢膜があるものについてはa~f型までの6種類に分類されていますが、莢膜がないものは分類不能(nontypeable)型とされています。分類不能型は、重症の感染症を起こすこともありますが、莢膜があるインフルエンザ菌に比べると概して重症とはなりにくいと言われています。

#### <侵襲性肺炎球菌感染症>

2013年4月1日より届出疾患となりました。6件の報告があり、いずれも血液から菌が検出されています。それぞれの症例は、①90歳代女性、ワクチン接種歴無し。症状は全身倦怠感で、胆管炎からの感染が推定されています。血清型11型②70歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は発熱と呼吸困難。血清型不明③50歳代女性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱。血清型22型④0歳(生後6ヶ月~12か月)女児。ワクチン接種歴3回(7価結合型)有り。症状は肺炎。血清型19型⑤80歳代男性。ワクチン接種歴無し。症状は発熱、全身倦怠感。血清型7型⑥80歳代女性。ワクチン接種歴不明。症状は肺炎。血清型検査中)の報告がありました。予防にはワクチン接種が重要です。

<梅毒> 1件の晩期顕症梅毒の報告があり、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。  
 <風しん>

66件(男性55件、女性11件)の報告がありました。5件を除いてすべて予防接種歴が無いが確認できませんでした。風しんの流行は昨年6月から継続し、今年に入り報告数が大幅に増加しています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています\*。さらに、流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。4月22日から予防接種の助成が始まりました。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>



**定点把握疾患**

平成25年3月25日から平成25年4月21日まで(平成25年第13週から平成25年第16週まで。ただし、性感染症については平成25年3月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

**平成25年 週一月日対照表**

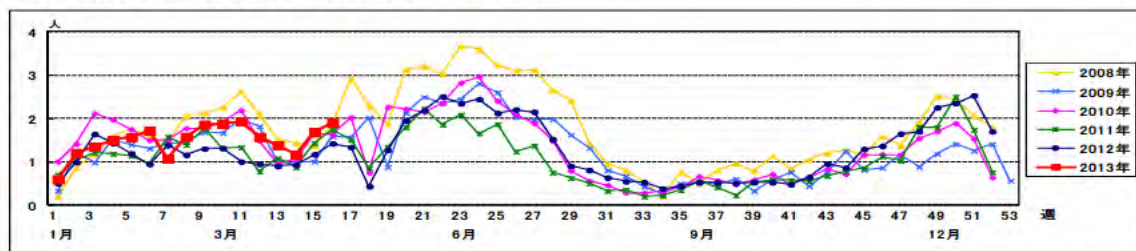
第13週	3月25日～ 3月31日
第14週	4月 1日～ 4月 7日
第15週	4月 8日～ 4月14日
第16週	4月15日～ 4月21日

**1 患者定点からの情報**

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 第16週は市全体で定点あたり1.92と、やや報告数が多くなっていますが、警報発令基準値8.00を大きく下回っています。



<性感染症> 3月は、性器クラミジア感染症は男性が14件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が23件、女性が3件でした。

<基幹定点週報> 全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回り、第13週0.48、第14週0.42、第15週0.46、第16週0.52と落ち着いてきています。横浜市でも第13週0.33、第14週0.50、第15週1.00、第16週1.00、と、以前に比べて報告数はやや落ち着いてきましたが、全国より多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報> 3月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件(鼻咽頭ぬぐい液44件、ふん便吐物6件)、内科定点1件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点4件(眼脂)、基幹定点5件(髄液5件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎25人、下気道炎16人、胃腸炎6人、インフルエンザ3人、内科定点はインフルエンザ1人、眼科定点は流行性角膜炎4人、基幹定点は無菌性髄膜炎3人、熱性けいれん2人でした。

5月8日現在、小児科定点のインフルエンザ患者2人と上気道炎患者1人からインフルエンザウイルスB型、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型、上気道炎患者3人からアデノウイルス(3型、4型、型未同定)、胃腸炎患者1人からパレコウイルス1型、内科定点のインフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の下気道炎患者6人と上気道炎患者2人からライノウイルス、下気道炎患者5人と上気道炎患者2人からヒトメタニューモウイルス、上気道炎患者2人と下気道炎患者1人からアデノウイルス、上・下気道炎患者各1人からパラインフルエンザ、上気道炎患者各1人からヒトコロナウイルスとヒトボカウイルス、胃腸炎患者1人からノロウイルス、基幹定点の無菌性髄膜炎患者1人からアデノウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

4月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科定点から1件、基幹定点から8件、定点以外の医療機関等からは3件あり、腸管病原性大腸菌(O166:H18, *eae+*)、サルモネラ(*S.Kottbus*)が検出されました。

その他の感染症の検体受付は小児科定点から8件で、A群溶血性レンサ球菌が5件、B群溶血性レンサ球菌が1件検出され、基幹定点からは肺炎球菌が1件検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(4月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	4月			2013年1月～4月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	1	8	3	2	43	8
菌種名						
赤痢菌					1	
腸管病原性大腸菌		1			1	
腸管出血性大腸菌						4
チフス菌					3	
サルモネラ	1			1	16	
不検出	0	7	3	1	22	4

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	4月			2013年1月～4月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	8	1	69	26	15	82
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌 T1				1	1	
T2	1			3		
T6				2		
T4	2			6		
T12	1			1		
T25	1			1		
T28				2		
T B3264				2		
B群溶血性レンサ球菌	1			1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					6	
バンコマイシン耐性腸球菌					1	
インフルエンザ菌				1		1
肺炎球菌		1		1	3	
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌				2	4	
結核菌						10
G群溶血性レンサ球菌			1			1
緑膿菌			63			63
不検出	2	0	5	3	0	5

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成25年3月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成25年4月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成25年3月のアクセス件数、アクセス順位及び平成25年4月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (平成25年3月)

平成25年3月の総アクセス数は、180,370件でした。主な内訳は、感染症59.9%、食品衛生23.2%、保健情報4.7%、検査情報月報4.0%、生活環境衛生1.5%、薬事1.0%でした。

### (2) アクセス順位 (平成25年3月)

3月のアクセス順位(表1)は、第1位が「食品添加物データシート:亜硝酸ナトリウム」、第2位が「風しんについて」、第3位が「衛生研究所トップページ」でした。

3月の総アクセス数は、前月比で約8%の増加となっています。感染症に関するアクセス数が多くを占めています。今月は、食品添加物の亜硝酸ナトリウムが1位となりました。これは、3月25日に大阪府枚方市

の国道で、「亜硝酸ソーダ」と書かれた紙袋が落ちていた報道によって、アクセス数が増加したと考えられます。2位の風しんについては、まだ高い水準で流行しており、手洗いやうがいによる予防対策が大切です。

また、マイコプラズマ肺炎のアクセス件数は、年間を通じて多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成25年第9週(2月25日～3月3日)0.51、第10週(3月4日～10日)0.50、第11週(3月11日～17日)0.53、第12週(3月18日～24日)0.58、第13週(3月25日～31日)0.48となって、推移しています。

表1 平成25年3月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	食品添加物データシート:亜硝酸ナトリウム	20,431
2	風しんについて	5,550
3	衛生研究所トップページ	4,716
4	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	4,041
5	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	4,037
6	マイコプラズマ肺炎について	3,612
7	サイトメガロウイルス感染症について	2,474
8	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,470
9	臨時情報	2,377
10	感染症発生状況	2,372

データ提供:総務局IT活用推進課

## 厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成24年10月改訂

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou30/index.html>

## 「風しん」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/rubella1.html>

### (3) 電子メールによる問い合わせ（平成25年4月）

平成25年4月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 平成25年4月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
風しん罹患後の妊娠について	1	感染症・疫学情報課
ポリオの後遺症について	1	感染症・疫学情報課
トキソプラズマについて	1	感染症・疫学情報課
飲食店での異物混入について	1	中区生活衛生課食品衛生係

### 2 追加・更新記事（平成25年4月）

平成25年4月に追加・更新した主な記事は、19件でした(表3)。

表3 平成25年4月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
4月 3日	感染症に気をつけよう(4月号)	掲載
4月 4日	風しんの発生状況	掲載
4月 8日	◆パンフレット◆ 子宮頸がんを予防するワクチンを知っていますか？	更新
4月 9日	◆パンフレット◆ 肺炎球菌ワクチンを知っていますか？	更新
4月 9日	◆パンフレット◆ ヒブ(Hib)ワクチンを知っていますか？	更新
4月10日	◆パンフレット◆ 細菌性髄膜炎を知っていますか？	更新
4月11日	ヒトパピローマウイルス(HPV)と子宮頸癌等について	更新
4月11日	肺炎球菌感染症について	更新
4月11日	ヘモフィルス・インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	更新
4月11日	アメリカ合衆国のこどもの定期予防接種について	更新
4月11日	インフルエンザワクチンについて	更新
4月11日	英国・ニュージーランドのこどもの定期予防接種について	更新
4月15日	クロストリジウム・ディフィシル感染症について	更新
4月24日	インフルエンザについて	更新
4月24日	人間への感染が見られたA型インフルエンザウイルスの亜型について	更新
4月25日	風しんの発生状況	掲載
4月26日	アレルギー物質の検査について	更新
4月26日	遺伝子組換え食品とは？	更新
4月26日	遺伝子組換え食品の検査	更新

【 感染症・疫学情報課 】